

“人”が元気 提言案)

1. 目標 “みのお”は大人も子供も元気だね！ となるために
一人ひとりが健康づくりに取組む
誰もが励まし支えあえるまち“みのお”をつくる

2. 指標

	2008年	2015年	2020年
小・中学校「体力指標」			
健康みのお21「健康指標」			
市民「元気度」意識調査 (詳細未定)			
「箕面ふれあいDAY」参加者(個別課題として)・・検討する			

3. 現状と課題

近年 子供が外で遊ばなくなった。近くに遊び場がない、戸外は危険である。仲間がいない。といった問題もあるでしょうが、こんな状況が子供の体力低下を招いています。また子育て世代は毎日が仕事と家事に追われて、生活習慣病やストレスがたまり、精神的、肉体的にも“元気”を失っております。このような状況は全国的な問題ですが箕面市でも今後ますます深刻化するものと思われまます。最近は特に“からだ”の健康とあわせて“こころ”の健康の大切さが叫ばれています。よって市民誰もが毎日“からだ”も“こころ”も元気で暮らせるよう政策の実現に、市民、民間、NPO、行政一体となって取組んでいきます。

4. 取組・役割分担

(1) 市民等が取り組むこと

- 健康管理について民間・行政の制度やサービス内容を正しく知り活用する
- 食の安全管理、生活習慣病の改善に努める
- 趣味、スポーツ、文化活動などを通じて心身の健康、と仲間づくりに励む
-

(2) 市民等・行政が協働で取り組むこと

- 生涯学習活動や総合型スポーツクラブ(個別課題)の市民利用の拡大作戦
- 全市あげての「箕面ふれあいDAY」(仮称：個別問題)の立上げと定着をはかる

(3) 行政が取り組むこと

- 市立病院、ライフプラザを中心とした「健康づくりプログラム」の充実。
- 学校給食が尚一層「食育プログラム」として充実をはかる。
- 小・中学校の運動“部活”の復活を行う。
- 「健康相談窓口」「健康づくりのお知らせ」など市民へ積極的に働きかける。

“まち”が元気 (提言案)

1. 目標 “みのお”に誇りを感じる。ここに住み続けたい となるために
安全で安心なまちづくりを一層強化する
他所にない魅力あふれるまちづくりに市民が積極的に参画する

2. 指標

	2008年	2015年	2020年
犯罪、火災、交通事故件数			
市内の危険災害箇所件数			
公共施設利用者数			
市内マイカー利用者数			
観光客数、観光業売上高			

3. 現状と課題

近い将来、阪神淡路大地震をしのぐような大きな地震の発生が予想されています。また地球気候の変動から、今までにないような規模の台風や集中豪雨も心配されます。安全で、安心して暮らせるまちにするためには、「災害に強いまちづくり」そして災害に備えた「危機管理体制」「地域防災管理」など、従来以上に市民と行政協働での「安全なまちづくり」を進めていきます。

このような安全、安心の基盤のもとに、他所にはない「魅力あふれるまちづくり」を進めます。市民は気軽に公園や体育館、コミセンなど近くの公共施設でスポーツや趣味に親しむことが出来るまち。また地元の新鮮な野菜や特産品など安全で、安心な商店街での買物、そして箕面の自然、歴史、文化を活かした新しい観光資源の開発や伝統行事の復活で「箕面の魅力」を観光客にも喜んで貰えるまちなど。市民、事業者、行政協働で元気な“みのお”のまちづくりを進めます。

4. 取組・役割分担

(1) 市民等が取り組むこと

- 各家庭では「防災意識」徹底と「災害準備」を着実に進める
- 市全域で公園、道路、河川の清掃、障害物撤去など安全美化運動の徹底
- 観光、文化、風俗、伝統行事の継承
- 特産品、朝市、地産地消の拡大
-

(2) 市民等・行政が協働で取り組むこと

- 地域において役立つ「防災組織、防災マップ、防災訓練」の実施
- 新しい観光資源の「箕面ブランド」の開発（候補例：足湯、緑の散歩道、多数）
- タウン情報の充実（メディア、機能、内容の再設計）

(3) 行政が取り組むこと

- 危機管理体制の見直しと強化（地域協働、近隣市町との広域連携など）
- 災害発生時の情報収集、発信、伝達体制の機能強化
- 火災、救急時の消防力の強化
- 街角危険箇所への防犯灯、防犯カメラの設置
- 交通事故発生危険箇所に対する信号機、カーブミラー、ガードレール等の設置
- マイカー利用から公共交通利用へ転換指導。
- 自転車道、遊歩道の整備
- 生涯学習、文化イベント、スポーツ指導など内容の充実
- 「箕面ふれあいDAY」での施設無料開放（コミセン、体育館、駐車場など）

“やま”が元気 提言案)

1. 目標 “みのお”は美しいやまがあっていいね！ となるために
豊かな自然と山の資源をみんなで維持していく
山から元気をもらおう

2. 指標

	2008年	2015年	2020年
山麓ファンド件数と同意面積			
山間部ゴミ回収量			
山麓保全に関わる人数、回数			
山麓資源の活用種類と生産高			

3. 現状と課題

(1) 近年 箕面の山や川、そして滝が徐々に“元気”を失ってきました。今日まで永い歴史の中で、人々が大切にし、守り育ててきたこの豊かな自然環境は市民の心を癒してくれるとともに、鳥や昆虫、動植物をはぐくみ、なによりも自然災害を防止してきました。

まさに「箕面市民の宝」であるが、近頃は山林業に従事する人も少なくなる一方地球環境や気象の変化に加えて、自動車公害やゴミの不法投棄などから“みのおの山”の自然破壊が進んでいます。これまでも行政、市民、NPO 団体の皆さんの保全の努力でやってきましたが、今も進行はとまりません。これ以上自然破壊が進めば“やま”からの恩恵や資源を失うでしょう。それ以上に自然災害の危険にさらされます。行政は国や府とも連携し、市民や団体は従来以上に山麓保全の仕組みに工夫と努力を重ねてこの北摂山系の自然回復にかかわっていく事が重要な課題であります。

(2) 一方 市民はこの“やま”の資源を十分に活かした新しい産業や事業、商品の開発、そしてハイキングやキャンプなどレジャーや観光、青少年や幼児教育の場など“やま”からの恵みと元気をもらう事も今後大切です。21世紀はセラピーの時代と言われます。市民、事業者、行政の協働でそれらにかかわる新しい観光、資源を創り出し「あたらしい魅力」ねらっていきます。

4. 取組・役割分担

(1) 市民等が取り組むこと

- 観光シーズンでのマイカー自粛
- ゴミ持ち帰りの徹底作戦展開
- 里山文化の継承 例)「まんどろ火まつり」「亥の子」
- “やま”を楽しむ 例)ファミリーハイキング、キャンプ、コンサート

(2) 市民等・行政が協働で取り組むこと

- 「箕面ふれあいDAY」で“やま”のクリーンアップ作戦展開
- プロ、アマの山びとの育成と拡大
- 新しい産業、商品の開発 例) バイオマス、木工品、セラピー観光
- 新しい観光 例) 自転車ツーリング、アスレチック場、写生大会
- 新しい教育 もりの幼稚園、青少年野外教育場、
- “やま”パトロール、コース案内
-

(3) 行政が取り組むこと

- 国、府との環境保全連携事業の強化、例) 土地や道路の開発
- ドライブウェイ(府道)の 観光シーズンマイカー乗り入れ規制。
- 自然災害、山林火災の予防 点検 指導の強化
- 近隣市町と連携した 観光事業や産業、資源開発の展開

分科会の皆さんへ

当分科会で残されている課題

1. 「取り組みによる効果」の記述がまだ されていません。

課題がすべて“元気”になろう!と謳っているのですが、これについてどう記述すべきか 田中も困っています。 リーダー会で調整させてもらいますが 皆様ご意見あれば教えてください

2. 実施すべき項目がアイデア的のものばかりです。最期はあきらめるものもあると思います。世話人会や、他の分科会と調整が終わった後、残った個別課題はもう 一歩詳細化する必要があります。その要に認識ください。

3. 指標の項目に数値をいれていません。現在値を把握しないと入れられません。